

わたしたちの地域シリーズ 第2回

安心して暮らせるまち 厚別

厚別区にある3つのワーカーズは、子育て・食・高齢者福祉の視点で、子どもからお年寄りまで安心して暮らせる地域づくりを考え事業を行っています。今回は、業種を越えて連携し、生活者の立場になり取り組んできた様子を紹介します。

事業内容

- ・惣菜の店舗販売
- ・弁当の宅配
- ・札幌市高齢者配食サービス事業
- ・地域の幼稚園への支援弁当
- ・せっけんステーション



事業内容

- ・個人保育・集団保育
- ・親子ひろばほっとたいむ運営（伏古会場、大谷地会場）



子育て支援ワーカーズ ほっぺ

代表：藤井 麗美

● 設立の目的や想い

転勤族が多く、共働き世帯も多い厚別地区で、育休中の方を含めた親子の居場所「親子ひろば ほっとたいむ」を運営するなど、2019年3月に設立しました。地域の親子が集まって気軽に悩みを相談したり共有したりできるひろばや、個人保育・集団保育を通じて、子育て家庭を応援していきたいです。

● 実践している地域とのつながり（地域ニーズ）

- ・親子ひろば来場者から個人保育へ
- ・厚別区子育て支援係との連携
- ・地域連絡会やワーカーズ地域会への参加から、子育てだけでなく様々な視点で地域について考える機会をもち、市への予算要望につなげている



事業内容

- ・たすけあい事業・介護保険事業
- ・札幌市訪問型独自サービス事業
- ・障がい福祉サービス事業
- ・札幌市移動支援事業
- 上記事業の訪問、移動支援



NPO 法人 たすけあいワーカーズ のほろ

代表：井端 幸子

● 設立の目的や想い

生活クラブの活動をしていた仲間が集まり、地域に必要とされるワーカーズを立ち上げようと話し合いを進めました。そして、札幌市の高齢化・核家族化が進む中で福祉へと目を向けるようになり、高齢になっても身体が不自由になっても、住み慣れた家や街で安心して暮らし続けることができるよう“お互い様の気持ち”で助け合えるシステムをつくるため、30～40代の16名のメンバーで1995年9月に設立しました。

● 実践している地域とのつながり（地域ニーズ）

2012年6月に得たWAMの助成金（たすけあい5団体）で地域にあるアパートの1室を借り、コミュニティサロン「のほろるーむ」を週3回開催していました。1年の助成期間後も、翌年には自力でアパートを借りて続けましたが、拠点の運営費を捻出できずにいました。やむなく終了かと思われましたが、地域の方の声掛けでカトリック小野幌教会の1室を借りることができ、現在は週1回開催しています。当初から、高齢の方よりも子育て真っ最中のお母さんと子どもたちの参加が中心で、子どもたちの成長を見ながら、お母さんたちは普段できないおしゃべりを楽しんでいます（現在は新型コロナウイルス感染予防のため休止）。また、ヘルパーの質を向上させ地域課題に対応するため、2001年に区内の20事業所で発足した「厚別区ホームヘルパー連絡会」は、現在10事業所で活動しています。

地域に広がる
私たちのネットワーク 環境と人にやさしいまちづくりのために

2020年度 地域連絡会構成団体
生活クラブ厚別支部
市民ネットあつべつ
NPO 法人たすけあいワーカーズのほろ
ワーカーズ・コレクティブ 花（食）
子育て支援ワーカーズ ほっぺ（子育て）
（仮）LaLaスマイル With（戸配）

かつて厚別清掃工場があり、煙突から出る煙を眺めながらダイオキシンの心配をし、松葉を使ったダイオキシン量の調査に大勢で取り組みました。工場の解体が決まってからも、1年以上かかった解体作業を見守るなど環境問題に目を向けて活動してきました。また、住宅地にまで乱立する携帯電話の基地局アンテナに眉をひそめ、電磁波による身体への影響を懸念して学習会を開催したこともあります。

最近では、化学物質過敏症の方から直接話を聴く機会があり、多くの人が集まりました。特に、柔軟仕上げ剤などによる香りの害「香害」については、子どもの発達への影響もあると知り、このままで良いのか気になっています。学校としては対処しにくいと聞いていましたが、厚別区には化学物質過敏症に対応した教室が開設されている小学校が2校もあると知りました。

また今年度は、誰もが安心して自分らしく暮らせるまちづくりの実現をめざす活動「こんなまちに暮らしたい」に、香害をテーマとして取り組んでいます。生活クラブ組合員を対象に「香料入りの洗剤、および柔軟剤を使用した事があるか」「使用してみてどうだったか」のアンケートを実施しました。